

2018 年度第 1 回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日 時： 2018 年 7 月 1 日（日）12：00～17：30（受付 11：30～）
会 場： 学習院大学 西 2 号館（東京都豊島区目白 1-5-1）

ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2018 年度第 1 回の全国研修会は、学習院大学で開催させていただきます。全体講演では、ユング派分析家・北口分析プラクシスの北口雄一先生に、「心理療法とは何か？どう効くのか？」という演題で、お話しして頂きます。とても刺激的な演題です。「心理療法とは何か」という問いは、そのまま「こことは何か」という問いに直結するものと思われまます。ここは目に見えません。目に見えないものを「何か」と問うには、その「何か」を象徴として現前させることも一つの方法かもしれません。皆さまが日頃取り組んでおられる心理療法について、「心理療法とは何か」と、今一度、考えてみるいい機会を頂けることと思います。

今回も、6つの分科会と、震災対策用分科会を1つ設けております。6つの分科会のうち2つの分科会で事例を募集しております。北口雄一先生も、全体会に引き続き、「イメージによる心理療法とは、何か」というタイトルで事例を募集しておられます。全体会と関連して、箱庭・夢を用いた事例などから、「心理療法とは何か」を深められるようです。また、震災対策用分科会では、福島県臨床心理士会会長の安部郁子先生に福島の子どもの現状についてお話頂きます。福島の7年とこれからをじっくりと考える分科会になることと思います。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2018 年 4 月 吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修委員長 川戸 圓

<開催要領>

1. 定 員：200 名
2. 参加資格：以下の条件のいずれかを満たす方とします。
 - ①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
 - ②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
 - ③箱庭療法を導入・または導入を検討中の学校等教育機関の保健・養護領域に従事されている方
 - ④心理臨床を専攻する大学院生
3. 参 加 費：学会員：4,000 円 非会員：7,000 円 大学院生（非会員）：5,000 円
4. 研修ポイント：本研修会への参加は、臨床心理士教育・研修規定別項第 2 条（3）により、一般参加者は 2 ポイント、事例呈示者は 4 ポイント取得となります。

5. 研修内容

(1) 全体会：12：00～14：00

テーマ：「心理療法とは何か？どう効くのか？」

講師：北口 雄一氏（北口分析プラクシス）

概要：

心理療法の難しさの一つは、人の性格やあり方が様々にある分だけ、様々なセラピスト側のオリエンテーションがあることで、また同時に、クライアントのあり方も様々であるゆえに、すべてのクライアントに効く唯一の心理療法の方法やあり方はない、ということだと思います。そこから、経験を積んでも心理療法で何をしているのか分からないと悩んでおられる方も多くおられると思います。今回は、二項対立という動きの中でころころという現象に近づいていくユング心理学の立場や視点から、国家資格と向き合う今だからこそ、あらためて、心理療法とは何か、特にイメージに軸足を置く心理療法とは何か、どう効くのか、響くのかに、具体的な例も交えながら立ち戻りたいと思います。

(2) 分科会：14：30～17：30

以下の7グループに分かれ、分科会を行います。

事例呈示を募集している分科会は、概要の最後に〈事例募集〉の表記のある分科会です。事例呈示希望者は、「6. 参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。

● 第1分科会 岩宮 恵子（島根大学）

『心因性視力障害』という症状の示すもの」

どんなに検査をしても眼や脳自体に悪いところがないのに、視力や視野や色覚の異常などの視力障害が見られることがある。これは小・中学生の年齢で良く見られる症状であるが、その背景には、心理的な問題が存在することが多いと言われている。今回は、器質的な問題は否定されているのに、眼の痛みや、物の見え方の異常を訴えた女兒のケースから、この症状が示すものとは何なのか、そして「見（視）る」「見（視）られる」ということからこの症状を考えるとどのようなことが見えてくるのかなど、さまざまな視点から考えてみたい。（事例提供者：工藤生琴氏）

● 第2分科会 河合 俊雄（京都大学こころの未来研究センター）

「学生相談・スクールカウンセリングにおける夢・イメージ」

学生相談やスクールカウンセリングは、枠に弱さがあり、なかなか心理療法として深めることがむずかしく、イメージの使用など考えにくいかもしれない。しかしだからこそ、夢・箱庭・描画などを用いると、それが心理療法という大きな枠の中の小さな枠として機能し、思わぬ展開を生む場合がある。学生相談・スクールカウンセリングにおける夢・イメージの使用が可能なのか、それにどのような意味があるのかを、一般的にも事例を通して検討したい。（事例提供者：北山純氏）

● 第3分科会 川崎 克哲（学習院大学）

「基準型としての神経症圏の箱庭構造」

現代において、純粋な神経症症状がみられなくなったと言われるようになってすでに久しい。にもかかわらず、深層心理学派の源流であるフロイトの精神分析は神経症を治療するという格闘から創設されたものであり、ユング派を含むそれ以降のさまざまな学派においても神経症というものは今でも理論的・実践的に重要な基準になっていると考えられる。本分科会では、箱庭における基準型として改めて神経症圏の箱庭がどのような構造をもっているのかを検討していきたい。精神病圏や発達障害などの神経症圏とは異なる病態水準を理解する上でも、この基準型としての箱庭を理解・把握しておくことはとても有意義であると思われる。事例発表は公募しますが、事例の中で箱庭が制作されたものであれば、神経症圏でも非神経症圏でも内容は問いませんのでぜひ応募してください。〈事例募集〉

● 第4分科会 北口 雄一（北口分析プラクシス）

「イメージによる心理療法とは、何か」

「イメージ」とは、非常に幅広いものです。箱庭や夢はもちろん、たとえば言葉のやり取りが中心の面接であっても、それはイメージによる心理療法でありえます。分科会では、この観点から幅広く事例の提供を募集し、事例検討を行いたく、皆さまに事例の応募をお願いします。また、参加者とともに、全

体会のテーマを深める時間も取りたいと思います。＜事例募集＞

● 第5分科会 田熊 友紀子（代官山心理・分析オフィス）

「思春期の箱庭：言葉以前の世界と言葉の生成」

思春期の子どもにとって、自分の心のなかで生じていることを言葉で説明したり表現することが困難であることが多い。また、思春期での自分との出会いにおいて、他者の存在や、世界の中に自分をいかに定位するかが重要となるが、周囲が他者として機能していないことでこのようなプロセスに困難が生じる場合があるように思われる。言葉以前の自分自身のイメージの世界との関わりとしての箱庭表現と、言葉によって他者と共有することを可能とする言葉による表現について、事例を通じて検討したい。（事例提供者：鈴木彩子氏）

● 第6分科会 田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

「母子生活支援施設での心理療法—夢・箱庭・描画を通してみる『家族』像の変容」

母子生活支援施設は、18歳未満の児童を養育している母子家庭、または何らかの事情で離婚の届出ができない等、母子家庭に準じる家庭の女性が児童と共に利用できる施設である。この分科会では、40代の女性とその娘という母子の事例を通して、面接当初は娘や家族なるものに外的にしがみついていたクライアントが、自身の病や娘の成長によって、そこから否応なく切り離されることで、「家族」像を内的に獲得していった過程を、夢・描画・箱庭を中心に検討する。また、そのことを通して、「家族」とは、そして「母」とは、いかなるものなのかについても、心理学的な考察を深めたい。（事例提供者：岡本朝美氏）

● 震災対策用分科会1（S1） 岸 良範（高輪心理臨床研究所）、渡部 純夫（東北福祉大学）

「福島の子どもたちの今」

東日本大震災から7年の年月が流れた。原発の廃炉作業は、いまだに一進一退を続けている。確実な終点が見えないことへの疲弊感が年々重みを持ってジワリジワリと心を蝕んでくる。原発周辺に居住する子どもたちは、不登校や心身的反応を出している。どうしたらよいかわからないことへの焦りとあきらめが影を投げかけてくるのである。今回は、震災直後から子どもたちの心の問題に取り組んできた、福島県臨床心理士会会長の安部郁子氏にお話を伺うことにした。安部氏の話から、福島の子どもたちの今が浮き彫りにされるものと思われる。安部氏の講話をもとに、岸と渡部が加わり3人で福島の7年の振り返りと、これからの課題について意見を交わすことを考えている。ぜひ、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

各分科会会場につきましては、当日受付にて配布のプログラムにてお知らせいたします。

6. 参加・発表申し込みについて

今年度から、WEBもしくはFAXでのお申し込みに変更させていただきます。下記をご確認の上、お申し込みください。

WEBによる参加・事例発表申込方法

【参加申込】

当会ホームページ（<http://www.sandplay.jp/conference.html>）

および右記QRコードの申込フォームよりお申し込みください。

申込が完了しましたら、自動返信メールが送信されます（※パソコン、スマートフォン対応）。自動返信メールが届かない場合は、

一般社団法人日本箱庭療法学会事務局（office@sandplay.jp）までお問い合わせください。

【事例発表申込】

上記と同様の申込フォームよりお申し込みいただけます。事例発表を「希望する」にチェックし、申込フォーム上にある＜事例概要記入シート＞にご記入の上、メール添付でoffice@sandplay.jpまでお送りください。参加申込締切後、事例発表の可否について、事務局よりご連絡いたします。

※＜事例概要記入シート＞は、当会ホームページからもダウンロードしていただけます。



FAXによる参加・事例発表申込方法

【参加申込】

同封の参加申込書所定欄に必要事項をご記入の上、一般社団法人日本箱庭療法学会事務局（06-6233-8529）へFAXにてお申し込みください。お申し込みを事務局で確認でき次第、受領FAXを送信いたします。返信FAXが届かない場合は、事務局までお問い合わせください。

【事例発表申込】

参加申込書裏面に必要事項をご記入の上、参加申込とあわせてFAXをお送りください。

※ 参加申込締切：2018年5月11日（金）【必着】

- ・お申し込みは、原則として先着順とさせていただきます。
- ・分科会コースの通知はおこなわず、お申し込みいただいた分科会で受付けさせていただきます。
- ・定員となった分科会より締め切らせていただきます。また、希望者多数の場合にはご参加いただけない場合もございますので、予めご了承ください。

7. 参加費振込みについて

自動返信メールもしくは、返信FAXを受領後に、以下の口座へ参加費をお振込みください。

振込先： ゆうちょ銀行振替口座 00900-8-233788

加入者名： 一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会

※ 参加費振込締切：2018年5月25日（金）

- ・納入された参加費のご返金はできませんので、予めご了承ください。
- ・振替用紙の通信欄には、「2018年度第1回全国研修会参加費」とご記入ください。
- ・振込締切までに入金を確認した方には分科会番号・名前等の記載された名札カード・名札ケースをお送りいたします。当日は名札・名札ケースをご持参いただき、身に着けてご参加ください。
- ・振込締切以降に参加費を入金された場合は、研修会当日に受付で名札をお渡しいたします。
- ・名札ケースは研修会終了後、必ずご返却くださいますようお願いいたします。

8. 研修ポイントについて

全体会、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規定別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には2ポイント、分科会での事例発表者には4ポイントが付与されます。名札が研修証明書の代わりになりますので、大切に保管してください。

9. 研修会に関するお問合せ先

一般社団法人日本箱庭療法学会事務局

住所：〒541-0047 大阪市中央区淡路町 4-3-6 新元社内

FAX：06-6233-8529

E-mail：office@sandplay.jp

10. 会場案内

<電車でお越しの方>

- ・JR山手線「目白」駅下車 徒歩30秒で西門、西2号館まで250メートル
- ・東京メトロ副都心線「雑司ヶ谷」駅下車 徒歩7分で正門、西2号館まで200メートル
- ・都電荒川線「学習院下」、「鬼子母神前」駅も利用可

